



ADRC Highlights

Vol.60

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

December 2, 2002

➤ ESCAP/OOSA 宇宙技術の防災利用ワークショップに参加

11月11日～15日、バンコクでUN-ESCAP/UN-OOSA主催のアジア太平洋地域における宇宙技術の防災利用ワークショップが開催され、40以上の国と国際機関から衛星保有組織、データ提供組織、データ利用機関等の専門家100名以上が集まり、衛星の防災利用について多面的な発表と議論が行われました。

このワークショップは6月に北京で開催された会議(ADRC Highlights49号参照)を受け、議論を深めるとともに具体的な協力の可能性を発掘する場でもありました。自然災害による被害は近年増大の一途をたどっており、防災の重要性は高まっています。これに対して、宇宙技術やGIS等ITの活用によって、災害の事前監視から状況推移把握、復旧状況の把握までを一体的に扱い、迅速かつ確かな防災対策を行うことが、持続可能な開発の推進につながります。

ADRCはNASDA(宇宙開発事業団)、CRL(独立行政法人通信総合研究所)、DAS(株式会社ダイヤモンドエアサービス)と共同で衛星を使った防災実験を行っており、NASDAがi-Spaceプロジェクトの概要と本共同実験の内容を発表し、ADRCは来年度初めに予定しているマレーシアにおける被災地の状況把握実験の概要を発表しました。

会議では様々な災害分析事例の報告だけでなく、どのようにして安価に衛星情報等を入手・分析するべきか、インターネットで情報提供ができないか、データ利用の普及のために標準化が必要ではないか、画像処理のための機材や専門化育成等、データ利用者の立場に立った問題提起も活発になされました。ADRCはこれらの指摘を踏まえ、今後の衛星利用実験をメンバー国と共同で推進するとともに、効果的なデータ提供や専門化育成等について検討を進めていきます。

(主任研究員 荒木田 勝)

➤ 第12回日米科学・技術・宇宙応用プログラム(JUSTSAP)ワークショップに参加

11月11日～15日に米国ハワイ州マウイ島において標記会議が行われ、ADRCからは羽鳥友彦主任研究員が参加しました。JUSTSAPは日米の宇宙技術関係者が年に一度日米の中間に位置するハワイに集まり、宇宙技術のアイデアや利用について自由に協議する場です。今回は日米あわせて約80名の参加がありました。

JUSTSAPはいくつかのワーキンググループに分かれており、ADRCが参加した災害監視・管理・軽減(DM3)グループは衛星通信(SatCom)グループと合同でシンポジウムを開催しました。羽鳥主任研究員はDM3グループの日本側共同議長を務め、またADRCが現在NASDA、CRLと共同で実施しているi-Spaceプロジェクトのパイロット実験のうち、可搬型デジタルビデオカメラと車載局を用いたリアルタイム災害ネットワーク/遠隔危険度評価システムについて発表しました。

会議中、同時期にバンコクで開催されていた国連主催の「アジア太平洋地域における宇宙技術の防災利用ワークショップ」とインターネットによる同時中継で遠隔会議を試み、マウイとバンコク(時差17時間、距離約10,000km)の参加者による意見交換に成功しました。また、人工衛星通信技術の利点を活かすテーマとして、タンカーからの原油流出事故発生時のリアルタイム災害情報の取得・配信シミュレーションが提案され、今後JUSTSAPとしてシナリオを検討していくことになりました。



DM3/SatCom 合同シンポジウムの参加者たち(見学の太平洋災害センターにて)

DM3/SatCom 合同シンポジウムでは、現在開発中の観測技術や計画、ユーザーがどのような災害情報を必要としているか等について日米双方から発表がありました。単に技術発表だけでなく、学生教育、政策、ビジネスモデル、資金獲得など、話題は様々な分野に及びました。現在すべての発表内容をまとめた報告書を日米双方の事務局で編集中です。

(主任研究員 羽鳥 友彦)

➤ 第2回韓国国際災害軽減協力セミナーに参加



2002年11月7日、韓国行政自治部(MOGAHA)の国家防災委員会(NIDP)の主催により、第2回国際災害軽減協力セミナーが、「近年世界中で発生している異例の自然災害への対応を求めて」というテーマで開催されました。

韓国は、2002年8月から9月にかけて豪雨と台風Rusaにより甚大な被害を受けました。韓国政府高官をはじめ著名な研究者が多数参加し、被害の状況や現在の災害復興の進行状況などについて報告をしました。セミナーには、全国から200名以上の中央および地方政府の災害担当官が招待されました。

海外からは、米国地質学研究所(USGS)、メキシコ国家災害防止センター(CENAPRED)、国連国際防災戦略(ISDR)などがゲストスピーカーとして参加しました。ADRCは、ISDR事務局の代理として参加し、ISDRの活動について紹介しました。また、ISDR事務局長のサルパノ・プリセーニョ氏からのスペシャル・メッセージが送られました。

さらに、詳しいセミナーについてのお問い合わせは、角崎悦子(tsunozaki@adrc.or.jp)まで。

ご意見・ご要望等があれば
右記までご連絡ください。

編集・発行： Asian Disaster Reduction Center(アジア防災センター)

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1 IHDビル3F

E-mail: editor@adrc.or.jp TEL: 078(230)0346 FAX: 078(230)0347

誌代・送料： 無料 / 毎月2回発行(予定)